

平成 27 年度第 2 回矢臼別演習場周辺まちづくり構想住民懇話会の開催状況

日 時：平成 28 年度 2 月 4 日（木）13 時 00 分から 15 時 00 分

場 所：役場庁舎 1 階 101・102 号会議室

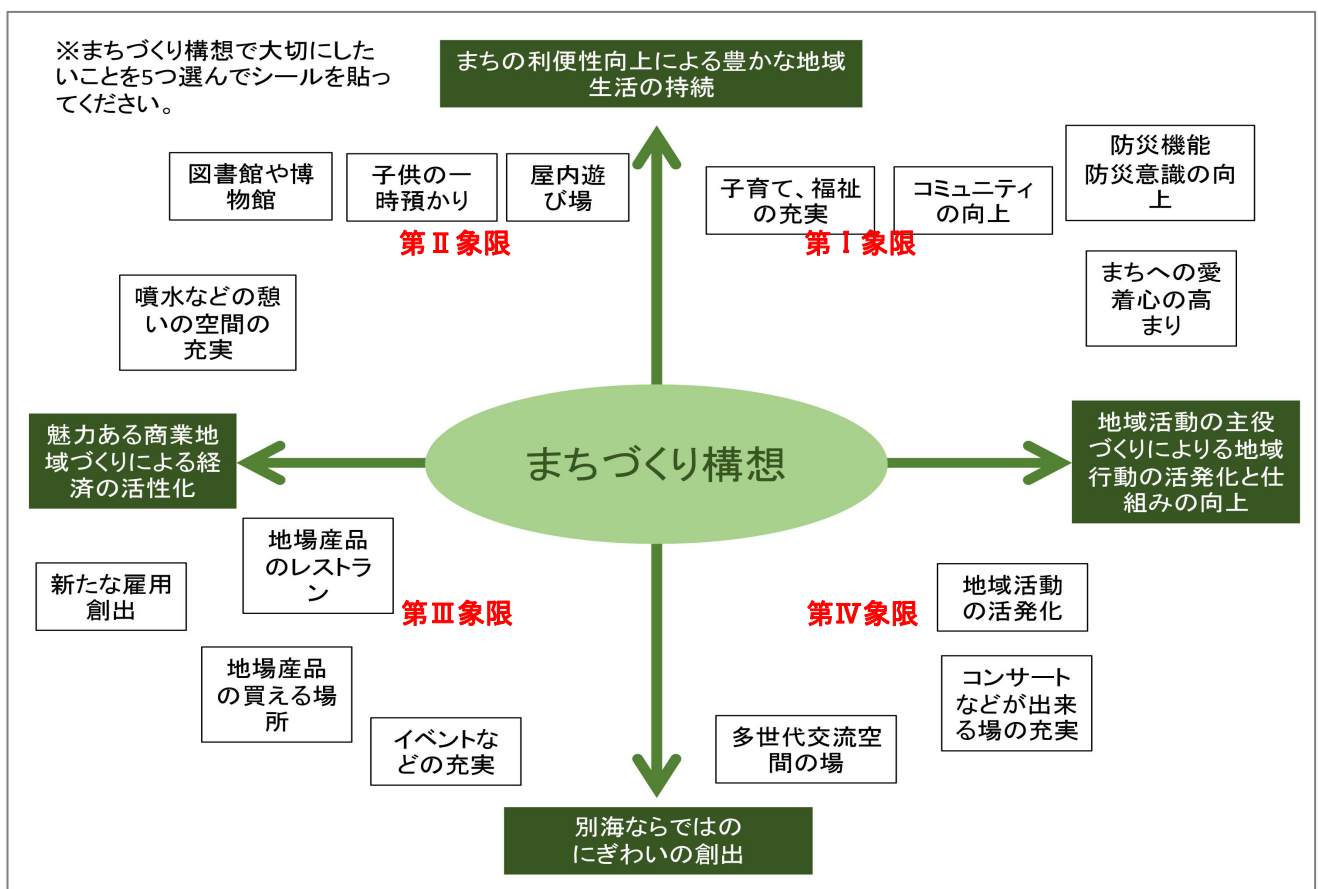
出席委員：山口座長、橋本副座長、片野委員、菅野委員、山崎委員、民部委員、青坂委員、高橋委員、片岡委員、藤沢委員、横山委員、高野委員、林委員（計 13 名）

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 前回の振り返り
- 3 議 事
 - 議案第 1 号 矢臼別演習場周辺まちづくり構想（基本構想）アンケート調査結果について
 - 議案第 2 号 まちづくり構想で大切にしたいこと（ワークショップ）
- 5 閉 会

議案第 2 号 まちづくり構想で大切にしたいこと

※以下の図を用い、2 テーブルに分かれてワークショップ



<A テーブル>

第Ⅰ象限

○コミュニティの向上、防災機能・防災意識の向上

- ・地域のひと同士はつながっているようでつながっていない。別海地区は高齢化も進んでいて若い人が町内会活動に参加していない。
- ・お酒を飲んだりイベントを一緒にする、町内会がどんな役割りを果たしているのかなど情報発信も必要。
- ・一人暮らしの高齢者を地域で支え、暮らし続けられる地域にするためにコミュニティの向上が必要。
- ・中春別？では新規就農者も多く、イベントなどの取組みも活発。カリスマ的な人材もいて若手に任せてもらっているので町内会活動は心配がない。
- ・コミュニティ向上は全てのことにことごとく関わってくるので重要である。

○まちへの愛着心の高まり

- ・まちへの愛着心が高まれば町外へ出てふるさと納税などで外から別海を応援する状況も生まれるのでは。

※コミュニティの向上と防災機能、防災意識の向上は特に密接な関係があり、一つのくくりとして再投票する。

第Ⅱ象限

○子どもの一時預かり、屋内遊び場、子育て・福祉の充実

- ・まちなかで親が買い物している間、子ども他が遊んだりする場がないので中標津の東武で買い物してしまう。
- ・お母さんと子どもの場はあるが、子ども（乳幼児）と高齢者が一緒になる場がない。高齢者が子どもの様子を見守り、面倒をみるような子どもからお年寄りまでが集える場が必要ではないか。
- ・子育て、一時預かり、高齢者サロンが一体になる必要がありのではないか。
- ・屋外の遊び場はあるが、雨が降ったときなどにも遊べる屋内での遊び場、交流の場が必要ではないか。

※子どもの一時預かり、屋内遊び場、子育て・福祉の充実の3つの項目は一体で考える必要があり、一つのくくりとして再投票する。

第Ⅲ象限

○新たな雇用の創出、地場産品のレストラン、地場産品の変える場所

- ・別海は酪農、漁業が基幹産業だが、酪農は離農も進んでいる。離農してもまちを離れないように別の雇用の場が必要。
- ・地域産業（一次産業）と第三次産業を活発にし、外に仕事に出ないようにするべき。
- ・加工や流通、販売などの工夫や、地場産品をつかったレストランなども必要。
- ・基幹産業を活かした次なる雇用、特に若い人が魅力を感じる仕事の場の創出が必要。
- ・まちが元気なうちに考え取り組むことが必要。
- ・出生率が高い地域であることを活かし、新しい雇用の場づくりを。
- ・別海でとれたものを別海で売る場がなく、地場産品を扱う店もない。

※新たな雇用の創出、地場産品のレストラン、地場産品の変える場所については表裏一体なので、一つのくくりとして再投票する。

第Ⅳ象限

○多世代交流空間の場、地域活動の活発化

- ・町内会も高齢化が進み。人材が不足している。JA や役場 OB が役員を担っている状況。
- ・町内会で何をしているのかわからない若い世代が多い。
- ・昔は町内会で葬儀を出していたが、町内で手伝う状況も少なくなり、中標津で葬儀するケースも増えている。
- ・学校の運動会では親やおじいちゃんが参加するプログラムもなくなっており、世代間交流が希薄になる事が心配。
- ・町内会の活動もマンネリ化している状況もあり、若い世代を呼び込めない。世代間ギャップを感じ、イベントへの参加も少なくなっている。
- ・ふるさとの大切さを子どもたちに如何に気づかせるか、学校教育の場面での取組みも必要ではないか。縦のつながりがなくなっている。

○コンサートなどが出来る場の充実

- ・まちづくり構想の議論と中央公民館の縦会に関する議論とそれぞれに整理する必要がある、中央公民館の機能充実を図るためにはホール機能は必要である。

※多世代交流を促すには地域活動が活発になる必要があるし、地域活動を活発にするためには多世代交流を促す事が必要であるため、一つのくくりとして再投票する。

その他

- ・別海は住む場所が少ない。中標津に住んで別海で仕事をする人もいるし、別海に住んで中標津で仕事をする人もいる。別海に住んで別海で仕事出来るようになるのがよい。
- ・住んでもらう人を増やすための取組みをしていくべき。
- ・子供の一時的預かり、屋内遊び場、子育て・福祉の充実と多世代交流の場づくりは、地場産品の買える場所などの商業機能とあわせて一体で考える必要があるのではないかな。

<B テーブル>

第Ⅰ象限

○コミュニティの向上

- ・つながりをつくる、コーディネートする役割が必要である。
- ・単発のイベント等は開催されているが、コミュニティを継続させるためにはつながりが必要である。
- ・世代別のコミュニティは現在もある。
- ・子ども、大人、高齢者など多世代間でのつながりが必要である。
- ・他の地域から別海へ移ってきた人とのつながりが必要である。
- ・サークルや団体での活動はされているが、横のつながりはあまりない。
- ・様々な才能、能力を持つ人の情報交換がしたい。
- ・情報交換できれば、空き家問題の解決などもできるのではないかな。
- ・見守りなどは町内会単位で対応してはどうか。
- ・中心部は高齢者が多く、郊外は子どもが多いなど地域によって状況が異なる。
- ・退職した人で中標津に引っ越す人もいる。

第Ⅱ象限

○図書館や博物館

- ・郷土資料館は来てもらえれば満足できると思う。
- ・古い農機具なども展示されている。
- ・駐車道との動線があまり良くない。
- ・歴史を引きついで、将来へつなげて行かなければならない。
- ・歴史を語れる人が少なくなっている。

○子どもの一次預かり

- ・昔ながらの子育てのかたちが良い。
- ・田舎らしくおせっかいにした方が良いのではないかな。

○噴水などの憩いの空間の充実

- ・今でも十分充実している。

第Ⅲ象限

○地場産品の変える場所

- ・別海といえば○○をつくりたい。
- ・自衛官として赴任し一定期間居住する人や住民などから要望がある。
- ・中心市街地には買える場所がない。
- ・1カ所にまとまっていると良い。
- ・別海に訪れた人を連れていける場所がほしい。
- ・乳製品や肉製品、海産物などオリジナルの商品はある。
- ・漁協が年数回行う直売市は好評である。
- ・町が広いため、中心市街地に何かないと人が集まらない。

○新たな雇用の創出

- ・商工会の会員数は約10年間減少していない。
- ・今後は維持できるかもしれないが、発展するためには新しい企業を入れる必要がある。
- ・加工業や農業には外国人労働者が多い。

- ・若い人の新規事業への支援制度（場所や資金など）を充実させたい。

第Ⅳ象限

○地域活動の活発化

- ・お年寄りが活躍できる場があると良い。
- ・若い人を対象に漬物教室や料理教室などはどうか。
- ・野付の漁協の女性部は、出張料理教室を開催している。

○多世代間交流の場

- ・コミュニティやつながりのための場があると良い。
- ・場の機能は、多様化や複合化した方が良い。
- ・子どもやお年寄りなど対象により場所を分けずに、広い空間の中に多世代がいて良い。
- ・中西別では「子供の成長を見る会」を開催している。